【2024年７月 月間予定表 ―東野校― 】 ◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

７月の予定

1	月	
2	火	
3	水	休校日
4	木	
5	金	
6	土	休校日
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	**高校入試報告会**（中１～２保護者対象）
11	木	
12	金	
13	土	休校日 ※全校舎、教室を閉めております。
14	日	
15	月	休校日
16	火	『定着確認テスト』(小４～中２対象)
17	水	休校日
18	木	
19	金	
20	土	●『夏期講習』開始 ※●が開校日です
21	日	●
22	月	●
23	火	休校日
24	水	●
25	木	●
26	金	●
27	土	休校日
28	日	●
29	月	●
30	火	●
31	水	休校日

※諸事情により予定を一部変更する場合があります。

【5月度のMVP】

●小学４～６年生

Ｙ・Ｒくん

Ｎ・Ｉくん　　Ｋ・Ｒくん

Ｎ・Ａくん　　Ｉ・Ｙくん

小学部クラス指導コース・算数確認テスト
全校舎ランキングで見事ランクイン！！！

７月行事について

●夏期講習・・・長い夏休みをいかに計画的に過ごすかで今後の学習成果は大きく左右されます。

【 言ったもん勝ち！ 】

保護者の皆様、いつもお世話になっております。

今からおよそ１５０年前。
アメリカ合衆国ペリー提督率いる米国艦隊が、江戸湾に現れたのです。黒船来航です。
それまで鎖国をしていた日本は震撼です。当時日本の船といえば手漕ぎですから（笑）。
やってきた黒船は鋼鉄でできた蒸気機関船。日本の大型船の約１９倍の大きさでした。
「日本はボコボコにされる！」と、恐怖におののくのが、ふつうの感覚でしょう。
しかし、その黒船を見て、こう思った日本人がいたんです。
「僕は乗り込むぜ」
吉田松陰です。当時２４歳。そして、本当に命がけで乗り込んだ。
また、その黒船を見てこう思った日本人もいました。
「黒船、オレもめっちゃ欲しい！」
坂本龍馬です。当時１９歳。事実、その後、龍馬は本当に船を手に入れます。
その黒船を見て、こう思った日本人もいました。
「つくれるやろ、オレらも」
事実、薩摩藩、佐賀藩、宇和島藩と３つもの藩が数年で黒船をつくってしまいました。

「黒船怖い！」「不安！」「やばい！」ではなく、
「乗り込むぜ」「俺も欲しい」「俺らもつくれるでしょ」
私たちの先祖たちは、大ピンチなのに、この状況に盛り上がっているのです。
ピンチの時こそ、「俺はやれる」って感覚。これが私たち日本人の大和魂なのです。

でも、こーいうひとたちって最近ではレアですよね。
逆境を自分の力で切り開こう！という発想をもてないひと絶対増えましたよね。
平和ボケって言うんでしょうか。いままでだれかが守ってくれてたから何とかなる、みたいな。
いまの世の中を、日本の未来を憂いて犠牲になっていった幕末の志士たちが見たら、どう思うのでしょうか…。

住職でありながら、芥川賞作家・玄侑宗久さんは、座禅の修行をこう語っています。
「座禅中に後ろから板で叩かれますよね。叩かれるとまず、『なぜいま叩かれたのかな』と思うんです。体が揺れたのかな、とかですね。
ところが何度も叩かれていると、だんだん理由が思いつかなくなるんです。
すると、不思議ですよ。昔のことまで思い出すんです。
高校時代にあの友達に意地悪したから、いま叩かれたんだなとか、小学生の時にウソついたからだなとか。
そこまで記憶をよみがえらせて、私たちはいま受けている仕打ちを合理化しようとするんです。それが禅の懺悔法なんです」

実は、ここに脳の使い方のヒントがあります。
ある現象が起きたときに、脳は、合理的な理屈を勝手に見つけ出そうとするのです。
不合理なままでは落ち着かないのが脳なのです。

例えば、今日あなたが会う人に「ありがとう」と言ってみます。その人に全然ありがとうと思っていなくてもOKです。声に出して「ありがとう」と言ってみます。
すると、あなたの脳は落ち着かなくなるはずです。
「なんで、アイツにありがとうなんだ」と。脳は、その不合理を許しません。
そして、理由もなく「ありがとう」と言っているうちに、その人のどこかいいところ、感謝すべきところを、脳は勝手に探してしまうのです。
「あ、そう言えば、アイツ昔、アイスひと口くれたよな」とか。
「ありがとう」と言ってしまった以上、その人のちょっとでもいいところを探さないと、脳は落ち着かなくなってくるのです。
つまり、とりあえず、口に出してみたらいいのです。あとから脳が処理してくれる。
不安を感じたときほど、大言を吐いてみればいいのです。「オレが世の中変えてやる！」って。すると、脳がその言葉を合理化するために動き出します。
有言実行の成果が出やすいメカニズムってこういうことだったんですね。

しんどいや辛いは当たり前。心配、不安もトーゼン。生きていくって、そーいうこと。
大事なことは、それらをどうとらえるか。不幸ととらえるか、魂の修行だととらえるか。

人間はこの世に何かを学びにきています。
人間は生きている以上、何かを学ばずにはいられない動物なんです。

あなたは何を学ぶために、この世にやってきましたか？

自分が学びたいものは何なのか。
それを知るために
また今日も学ぶのです。

塾長　山田　大介